静岡県下の同一産地に発生するウラゴマダラシジミの二型について

渡 辺 一 雄
浜松市紺屋町165

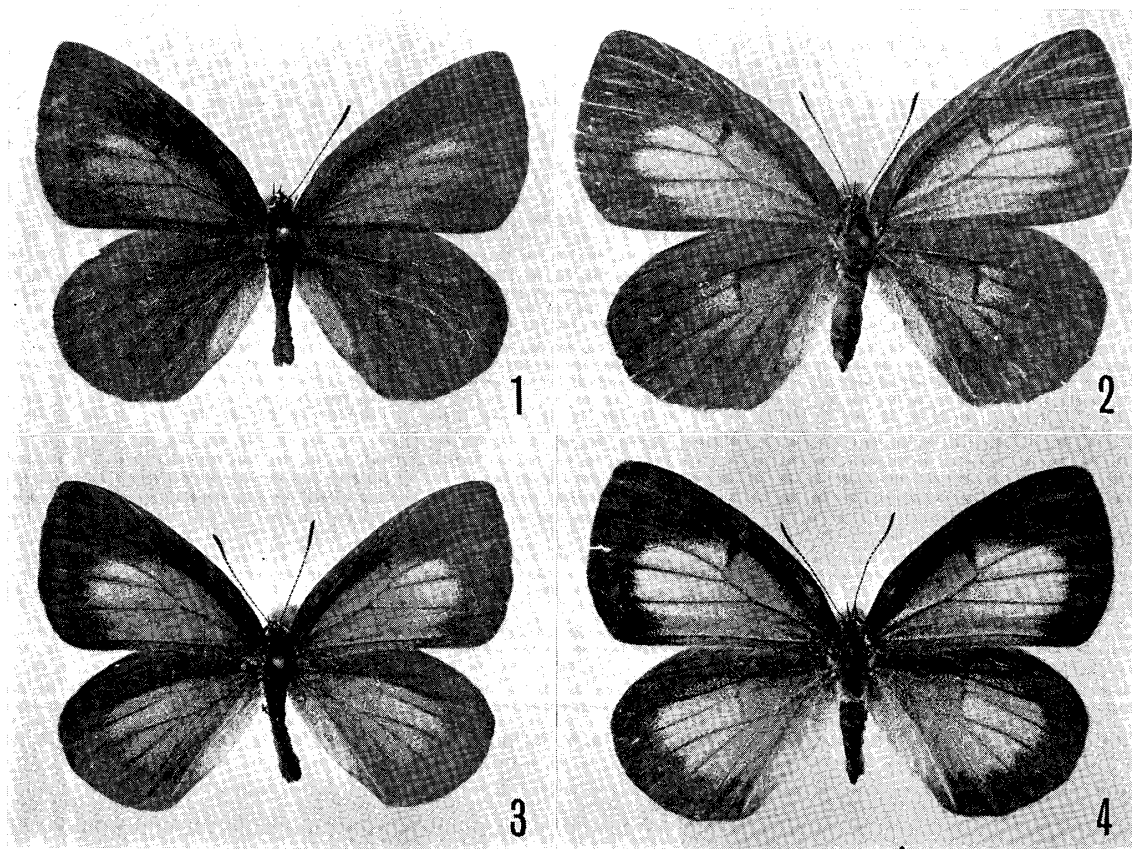
On two forms of *Artopoetes pryeri* Murray occurring in the same habitat in Shizuoka Prefecture, Central Honshû, Japan

KAZUO WATANABE

四国には従来ウラゴマダラシジミの後翅表がほとんど一様に黒褐色化した subsp. *shikokuana* Okubo が知られている．そして *shikokuana* に混って typical の *pryeri* も産することについて，つとに白水隆博士は，同一地に二亜種を産することは亜種の定義に反するので「この両亜種は同一種の二型と見る方が正しいかも知れない」という見解をとられている．筆者は静岡県西部地方において，最近両型が混生する地域を発見したので，ここで観察した結果について述べてみる．

本報告をするに当り，貴重なご意見を賜った白水隆教授に厚く感謝の意を表する．

静岡県内のウラゴマダラシジミの分布

ウマゴマダラシジミ *Artopoetes pryeri* Murray は静岡県のほとんど全域にわたって分布する蝶であるが，食樹の

Figs. 1-4. ウラゴマダラシジミ *Artopoetes pryeri* Murray（静岡県天龍市産）:（1）黒化型，♂；（2）黒化型，♀；（3）正常型，♂；（4）正常型，♀．

分布状態から生息地は局限されている．平地や低山地ではイボタノキ *Ligustrum obtusifolium* Sieb. et Zucc. が幼虫の食樹であるが，安倍川や大井川の水源地方の高地ではミヤマイボタ *L. tschonoskii* Decaisne にかわる．静岡県西部地方において，本種は遠州灘海岸に近接した地域を除いた平地から磐田郡の数 100 m の山地まで見られる．今までのところ 1000 m 以上の高地からは発見されていない．これはイボタ類の分布に関係があるためであろう．この中で三方原台地の湿地帯や天龍川流域に最も産地が多い．蝶の発生期は5月下旬から6月中旬までで，遠州地方から得た個体は一例を除いてすべて正常型に属するものであったが，最近になって黒化型の生息する場所を発見した．

ウラゴマダラシジミの二型

1968年から1972年の間に天竜市地内の同一発生地においてランダムに採取したウラゴマダラシジミは，正常型は2♀♀（前翅長： 23 mm, 1頭； 24 mm, 1頭）および9♂♂（翅長： 22 mm, 6頭； 23 mm, 3頭），黒化型は4♀♀（前翅長：24 mm, 2頭； 25 mm, 2頭）および 10♂♂（前翅長：18 mm, 1頭； 20 mm, 1頭； 21mm, 2頭； 22 mm, 4頭； 23 mm, 2頭）であった．両型が交尾している状態は未だ観察していないが，常に同一場所で混飛し，色彩を除いては行動や形体でも全く区別することはできなかった．このような状態はこの両型が同一種の遺伝的二型をあらわれている考えてよいと思う．母蝶に強制産卵させるか，野外から卵塊を採って飼育してみれば確証は得られるわけであるが，まだ両方とも成功していない．近い将来に解決できると思っている．

黒化型一前翅においては，黒化型は正常型に比較して青色部の面積がやや狭い．青色部は紫色が強く，白斑はほとんど認められないか，あっても小さい．後翅においては，中室（青色鱗粉のないものもある）およびVI室・V室の内半が青色である以外は黒褐色を呈するが，II室・III室の内半にわずかに青色鱗粉を有するものもある．この程度の個体変異は他の蝶の場合にもあることである．新鮮個体の裏面について比較してみると，正常型が純白であるのに対し，黒化型においては，外縁に沿った2列の黒点紋列間は純白であるが，他部は灰色であるという点でも差異がある．以上の結果から，黒化型は固定した型であって，常に正常型とは区別がつく．要するに正常型と黒化型は遺伝的二型と考えられる．

静岡県西部地方において，この一カ所だけに両型が見られることはすこぶる興味のあることである．しかも，コムラサキ両型の発生地と同一地域であることは偶然とは思われないような気さえする．

参　考　文　献

江崎悌三・白水隆（1951） 日本の蝶．新昆虫 4（9）：40.
白水　隆（1959） 原色日本昆虫大図鑑 I．北隆館，東京.
高橋真弓（1967） 静岡県とその周辺のミドリシジミ類．駿河の昆虫 57：1562—1564.
藤岡知夫（1972） 日本の蝶 ニュー・サイエンス社，東京.
岡本省吾（1962） 原色日本樹木図鑑．保育社，大阪.